

04

重点プロジェクト ～まずは取り組もう～

- 1 重点プロジェクトとは
- 2 重点プロジェクトを推進する上での姿勢
- 3 重点プロジェクト01～10



1 重点プロジェクトとは

わたしたちは、これまで共有してきた今の富士見台地域のまちの魅力を活かしながら将来にわたって持続可能なまちを実現していくため、まちづくりのツボ^(※)に対して、段階的にアプローチし、その効果を見ながら次の一手を打ち続けていく必要があります。

わたしたちが大切にしたい場所の価値が集積している場所やまちづくりのニーズが多かった取組を踏まえ、重点的・優先的に取り組むべきことを重点プロジェクトとしました。

(※) たくさんの暮らしを支える魅力的な場所と、支え合いを生む豊かなコミュニティ活動等

project
01

市民まちづくりプロジェクト 100（通称：市民 100 プロ）

project
02

さくら通りを軸とした富士見台地域の魅力向上プロジェクト

project
03

まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト

project
04

グリーンインフラを活用したまちの回廊化プロジェクト

project
05

谷保駅を含めた商業地のにぎわいづくりプロジェクト

project
06

（仮称）矢川プラスを拠点とした国立市の新たなにぎわいづくりプロジェクト

project
07

UR 国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト

project
08

**UR 国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる、住み続けられる
環境整備プロジェクト**

project
09

**未来に向けた重点エリア検討プロジェクト
（重点エリア：市役所を中心とした公共施設が集積する周辺エリア）**

project
10

市民と行政とのまちづくり体制構築プロジェクト

2 重点プロジェクトを推進する上での姿勢

市の第5期基本構想では、まちづくりの目標を「学び挑戦し続けるまち」とともに歩み続けるまち
 培い育み続けるまち「文教都市くにたち」と掲げています。その実現のためには、持続可能な開発目
 標 (SDGs) をはじめ、市が推進する様々な分野の取組に十分に配慮する必要があります。よって富士
 見台地域のまちづくりでは、以下の分野の取組を十分に踏まえ、特に重点的・優先的に取り組むべき
 10個の「重点プロジェクト」を掲げます。

- ・人権を尊重し、多様性を認め合うソーシャルインクルージョン^(※1)の理念に基づくこと
- ・ユニバーサルデザイン^(※2)に配慮すること
- ・脱炭素社会の実現に向けた環境への配慮を意識すること
- ・地域経済の循環や活性化に寄与すること
- ・文化と芸術が香るまちとしての魅力向上に寄与すること
- ・日常時とともに災害時への対応を視野に入れること
- ・重点プロジェクトに関わる人が、立場を超えて常に取り組の目的を共有すること
- ・既成概念にとらわれず、時代のニーズの変化に柔軟に対応しながら取り組む^(※3)こと
- ・重点プロジェクトによる周辺への波及効果を意識すること
- ・子どもから高齢者までだれもが楽しんで関われる工夫をすること
- ・子どもがまちや人と関わる機会を増やし、子どもの感性をまちづくりに活かすこと
- ・持続可能な開発目標 (SDGs^(※4)) を意識すること

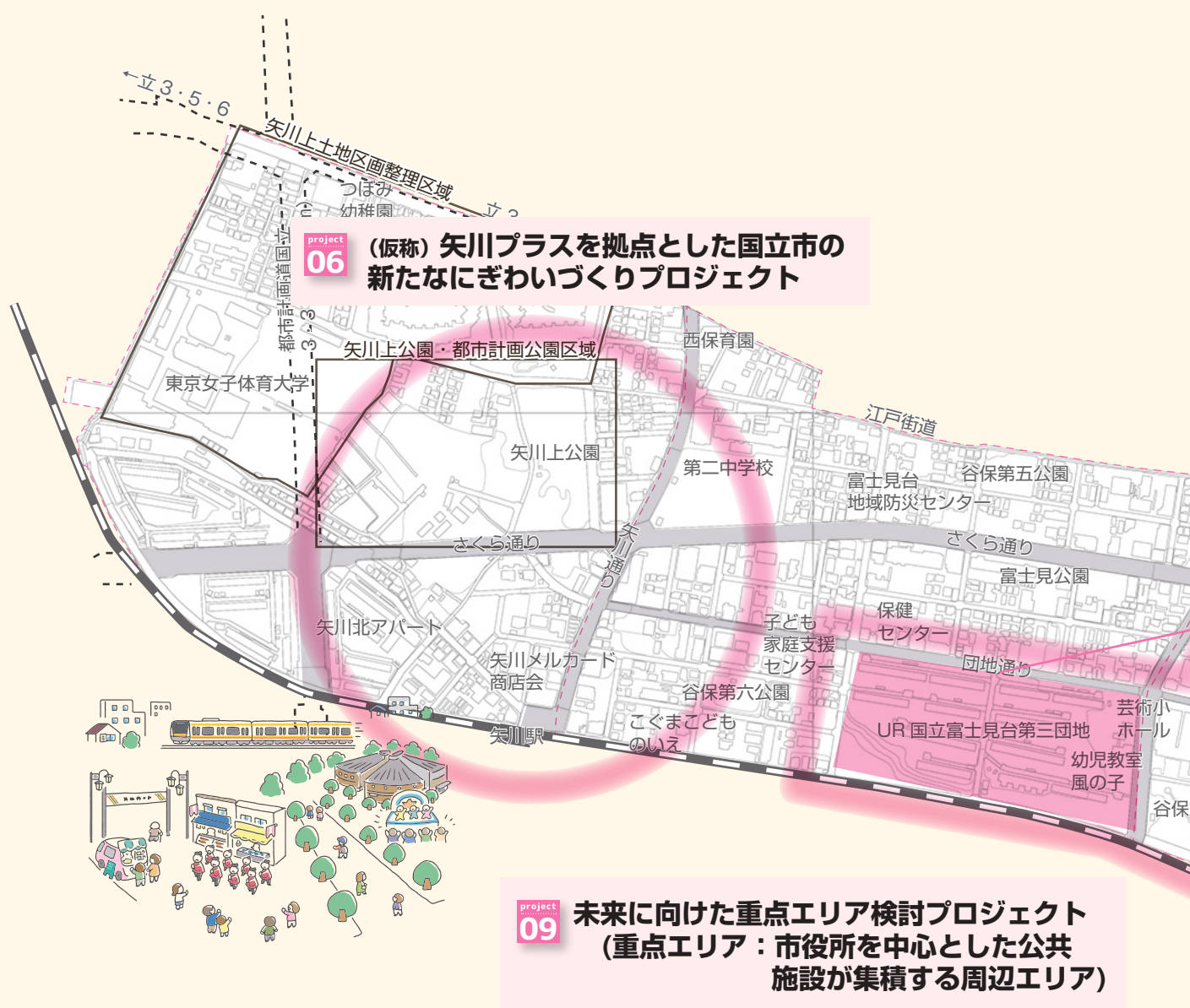
(※1) すべての人を社会的孤立や排除から守り、社会の一員として包み、支え合い、共に生きるという理念

(※2) すべての人が快適に利用できるように、わかりやすく、使いやすいものを作るためのデザイン

(※3) これまで地域で培われてきたまちづくりの蓄積を活用しながら、ICT等の先進的技術も効果的に取り
 入れていくことにより、地域の計画・整備・管理・運営を効率化・高度化し、各種の課題の解決を効
 果的に図り、市民生活の快適性や利便性を含めた新たな価値を創出すること

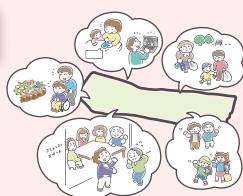
(※4) 平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、
 17のゴールと169のターゲットから構成される

3 重点プロジェクト01～10



富士見台地域全域対象

project 01



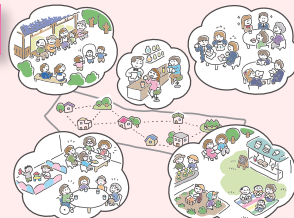
市民まちづくりプロジェクト100
(通称：市民100プロ)

project 02



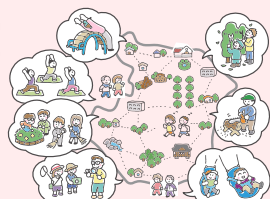
さくら通りを軸とした富士見台
地域の魅力向上プロジェクト

project 03



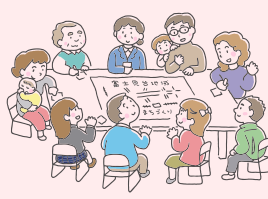
まちなかの居場所の魅力化・
拡充プロジェクト

project 04

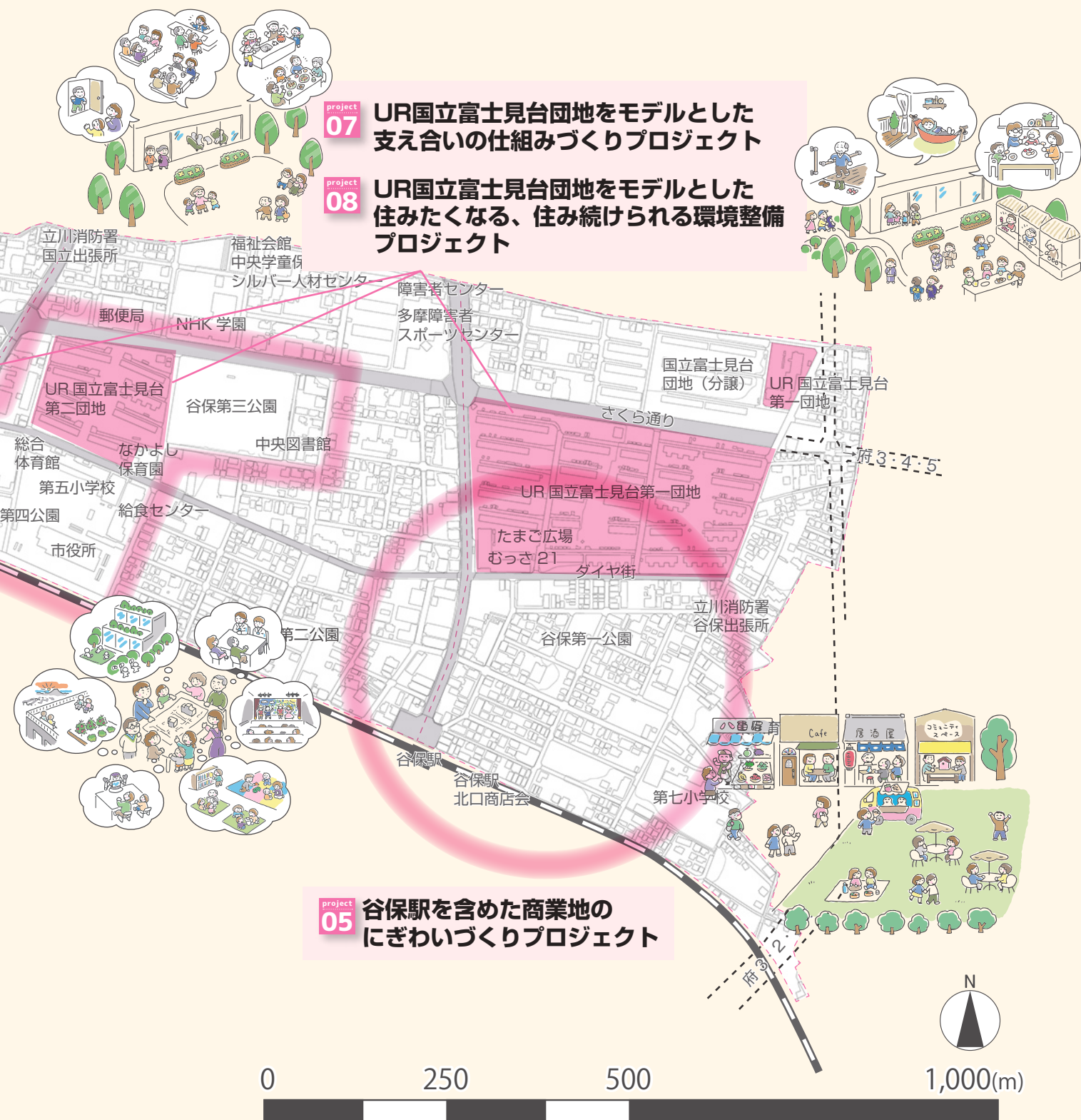


グリーンインフラを活用した
まちの回廊化プロジェクト

project 10



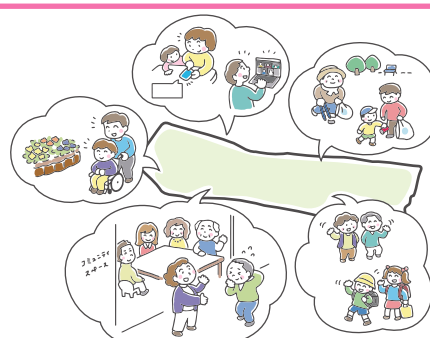
市民と行政とのまちづくり体制
構築プロジェクト



重点プロジェクトのページの読み方

ページの表記について

project 00 重点プロジェクトのタイトル



.....

.....

.....

重点プロジェクトのタイトル

めざす姿のイメージ

どんなことをめざして進めるプロジェクトなのか、そのイメージをイラストで表しています

コンセプト

なぜこのプロジェクトが必要なのか、その目的や共有したい目標を解説しています

活動テーマ



.....

.....

STEP 1 すぐに取り組みたいこと
すぐに取り組んでいること

まちを楽しむ・まちで楽しむ一日常的な小さな取組をまちづくりに関連付けよう


.....

[現状・課題等]

.....

.....

活動テーマ

活動内容の解説

具体的な活動 STEP1～STEP3

実施主体

具体的な活動を実施する主体が記号で表示されています

現状・課題等

プロジェクトを進めるうえで、プロジェクトを取りまく現状や背景にある課題を解説しています



まちをよくする取組

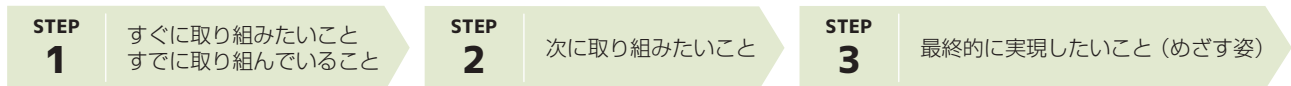
- [20] まちなかにコミュニケーションが生まれるスポットを増やそう
- [54] 道路を活用して地域の交流を促進するアイデアを考えよう
- [90] 多様な人が関われる参加型の機会を創出しよう

まちをよくする取組

P24～P31 の 6 つの整備方針に基づくまちをよくする取組の中から、プロジェクトに関連する主な取組を選び、プロジェクトを進める中で大切な取組として、確認できるよう記載しています

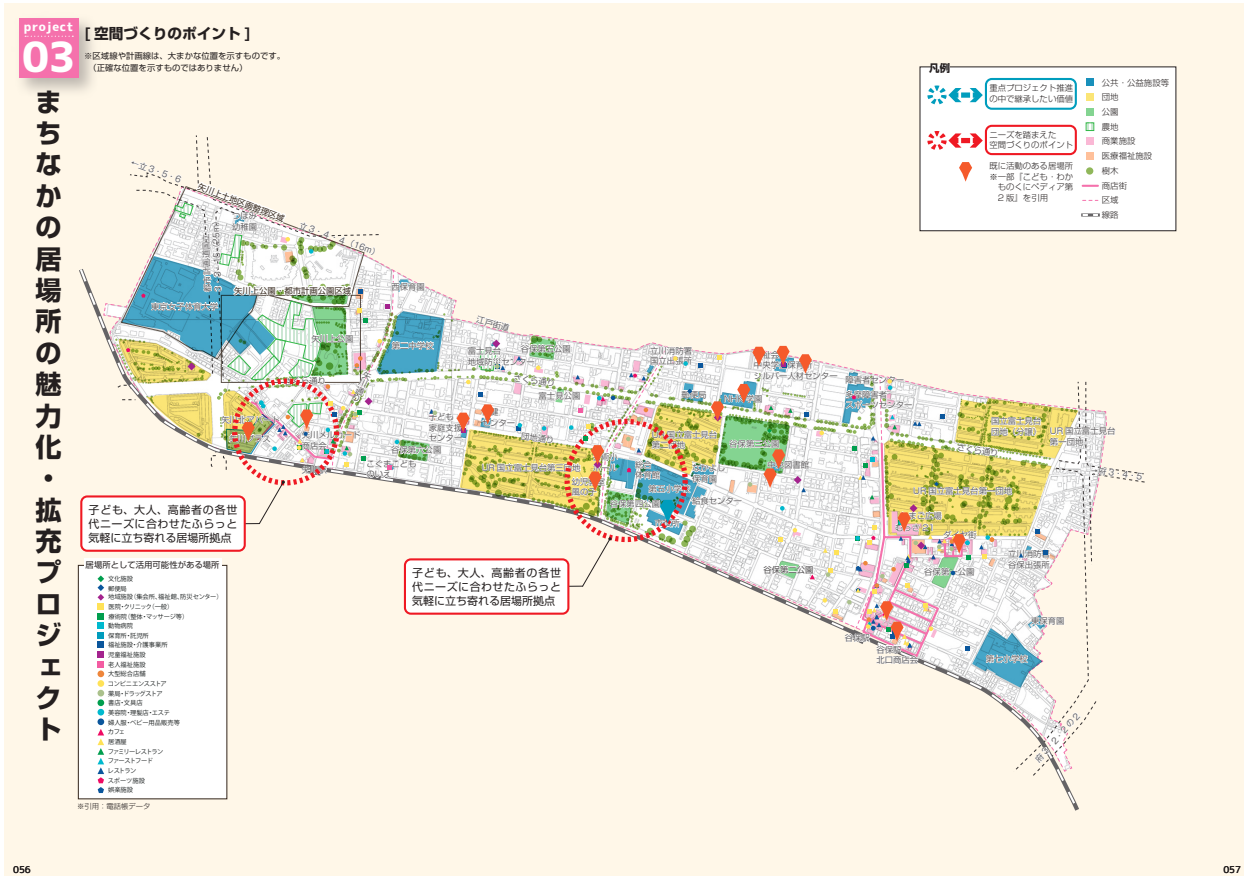
STEPについて

「具体的な活動」の順序を STEP1～3 として整理しています。各プロジェクトによって、取組期間は異なりますが、概ねの期間が想定できるものについては、期間を記載しています



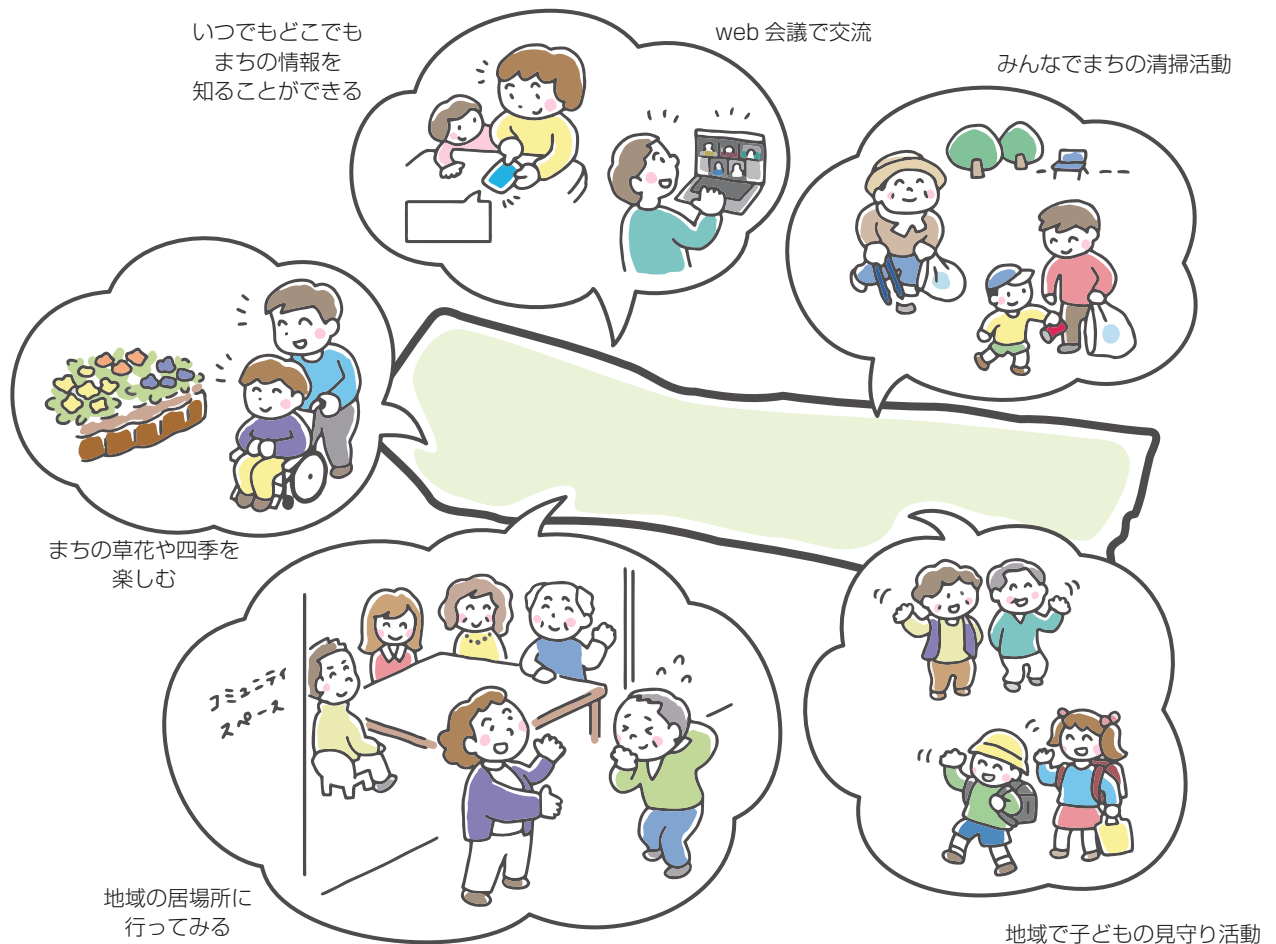
「空間づくりのポイント」について

重点プロジェクト中でも、場所が特定できるプロジェクトにおいては、想定される位置を地図上に表現し、さらにプロジェクトを進めていくうえで大切にポイントとして、場所の価値の継承や取組ニーズを踏まえた空間づくりのポイントも示しています



project
01

市民まちづくりプロジェクト100 (通称：市民100プロ)



富士見台地域のまちづくりで重要なのは、取組の成果だけではありません。日常的な小さな取組が、まちづくりに関わりあることを再評価し、人とまちとの関わりを増やしていくことが重要です。まちへの関わりは、まちの魅力を共有し、まちを使いこなすことにつながります。

さらに他者と協働することで、連帯が強まり、そこから、新たなまちの価値を地域ぐるみで創造することにもつながっていきます。富士見台

のまちづくりでは、他地域のモデルとなるよう、まち自体が、だれでも気軽にまちづくりに関わる簡単な第一歩を踏み出すことができるまちをめざします。そして、まずは、どんな小さなプロジェクト(取組)でも、100個を目標に取組をスタートします。一人ひとりの小さな積み重ねが、地域全体を豊かにし、コミュニティインフラ^(※)の創造・展開にもつながっていきます。

(※) 地域に暮らす多様な世代の生活、交流を支え、暮らしの魅力を高めるハード・ソフトの生活基盤

まちづくりへの参加・参画の仕組み（きっかけや機会）づくり



人とまちとの関わる機会が増えるよう、計画性や合理性、結果だけにこだわりすぎず、人がまちを楽しむきっかけや機会を市民と行政が協力してつくっていきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

まちを楽しむ・まちで楽しむー日常的な小さな取組をまちづくりに関連付けよう

- 市民・自分だけのお気に入りの「場所」で、自分の好きなこと、興味があることを楽しむ [市民]
- 市民・まちに出かけて、ちょっとした発見をしてみる [市民]
- 市民・「お気に入りの場所」や「ちょっとした発見」を、だれかに話してみる [市民]

今あるまちの取組に参加・協力をしてみよう

- 市民・まちのイベントや、まちなかの居場所に顔を出してみる [市民]
- 市民・自分ができる範囲で、まちの活動を手伝ってみる [市民]
- 行・まちの活動に対して、どういった支援（応援）ができるかを考える [行政]
- 団行・参加の機会を増やす [地域活動団体、行政]

〔現状・課題等〕

まちづくりと聞くと、何か大きなことをやらなければならないイメージですが、まちづくりの原動力は、近所の人とあいさつをしたり、地元の商店街で買い物したり、お気に入りの場所を見つけてくつろいだりと、一人ひとりの日常的な小さな取組の積み重ねです。

しかし、そんな小さな取り組みがまちづくりと関係していることに気がついていないことが多いのが現状です。その小さなまちを楽しむ取組が増えていくことで、地域ぐるみのまちづくりにつながり、まちの活力とにぎわいを生み出すことに気づき、日常的にできることから取り組んでいくことが大切です。



第4回富士見台ミーティングで出された
「自分ができることや、やってみたいこと」(一部)

STEP 2

次に取り組みたいこと

取組に関わる情報をどんどん発信しよう

- 市民・参加したり、実践した取組を積極的にだれかに話す〔市民〕
- 市民・知り合いを誘って活動に参加してみる〔市民〕
- 市民・団・多世代が参加できるように、SNS、ウェブサイトなど、デジタル媒体を活用して情報発信を行う〔市民、地域活動団体〕
- 団・地域活動団体同士が知り合い、活動内容を共有できる場を設ける〔地域活動団体〕
- 行・市報くにたちや国立市ホームページなど、国立市の広報媒体を活用して、国立市内・外に情報発信を行う〔行政〕

STEP 3

最終的に実現したいこと(めざす姿)

活動が連鎖し、小さな取組がまちづくりにつながるまちを実現しよう

- 市民・団・自分がやりたいことを仲間と一緒に企画して、お試しでやる〔市民、地域活動団体〕
- 団・地域活動団体同士がお互いの強みを生かして連携する〔地域活動団体〕
- 市民・団・事・行・地域のモノ・コト・ヒトが効果的につながり、産業や雇用が生まれ・育ち、だれもが働けて、チャレンジできて、地域経済が豊かになる仕組みをつくる〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕

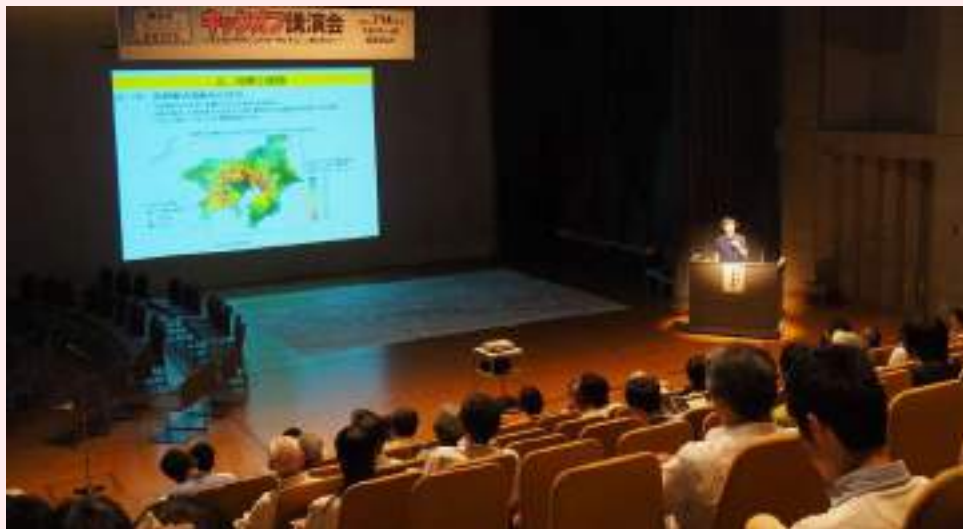
〔将来イメージ〕

コミュニティインフラは、地域に暮らす多様な世代の生活、交流を支え、暮らしの魅力を高めるハード・ソフトの生活基盤のことです。

人がつどい、形づくられる暮らしには物語があります。その物語は、人を通じて他のエリアへ展開し、さらに新たな物語が生まれるという好循環によって、コミュニティインフラが強化されていきます。



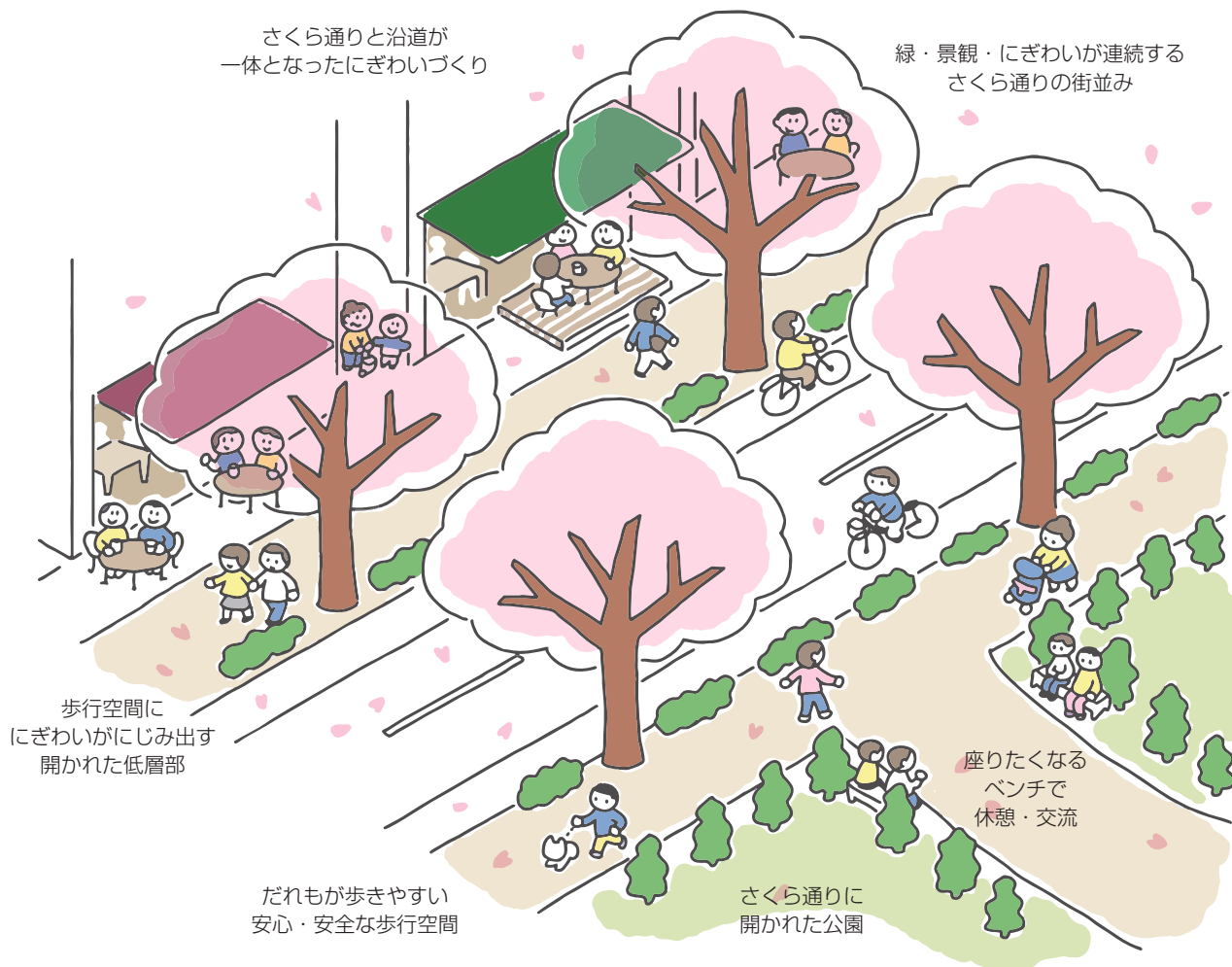
コミュニティインフラの展開イメージ



多くの市民が参加し、国立市のこれからのまちづくりを協働で考えていくためのきっかけとなった「キックオフ講演会」(平成 30(2018) 年 7 月に開催／くにたち市民芸術小ホール)

project
02

さくら通りを軸とした富士見台地域の魅力向上プロジェクト



富士見台地域には、地域を象徴する通りとして、東西を貫くさくら通りが存在します。その魅力を活かし、安心・安全で多くの市民が外出や、ひと休みしたくなるような魅力的な街並み・景観を形成し、これまで以上に、にぎわいを創出することが求められています。既にさくら通りでは、だれもがより安全で快適に移動できる人にやさしいみちづくりを進めるため、歩道のバリアフリー化とあわせ、車道を2車線化

し、自転車道の整備を行っています。また、さくら通りは、交通利便性向上のため、都施工による延伸工事が進められています。さらに、文化芸術の観点から、沿道に彫刻やベンチを配置しています。わたしたちは、将来的な交通量の変化なども想定しながら、将来イメージを検討し、沿道周辺も含めて歩いて楽しい歩行者ネットワークを形成し、さくら通りのさらなる魅力化をめざしていきます。

ワクワクするさくら通りの活用推進



道路活用の先行事例として、道路を車両交通のためだけでなく、活動の場所として活用する事例が全国的に広まりつつあります。道路を多様な人が出会い、交流できる新たな場所として道路を捉え、沿道との関係性も含め市民参加で楽しく活用できるような機会を増やしていきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

道路を活用した取組の企画・参加促進

- 市民・行・ さくら通りの散歩・まち歩きなど気軽にできるイベントを企画する〔市民、行政〕
- 行・ 道路を彩る取組のモデル事例やノウハウを紹介し、協力者の輪を広げる〔環境政策課（くにたち花と緑のまちづくり事業）〕

さくら通りを軸とした地域への愛着醸成

- 市民・ あいさつ運動や清掃活動などボランティア活動へ参加する〔市民〕

〔現状・課題等〕

さくら通りは、市民に親しまれる富士見台地域のシンボル道路です。これまで開催したワークショップでは、そんな道路をさらに活用したいという声がたくさん出されました。既に、あいさつ運動や清掃活動など、さくら通りに関わる様々な魅力的な活動があります。わたしたちは、それら活動に積極的に参加をしたり、今後さくら通りでどんな活動があったらよいか検討するなど、にぎわいづくりに地域ぐるみで取り組む機運を高めていくことが大切です。



さくら通りの美しい景観を象徴する桜並木
（榎戸征治さん撮影）

STEP
2

次に取り組みたいこと

沿道を含めた新たな道路の活用の検討・実践

- 市民・行・沿道の公園・広場、店舗等とさくら通りを一体的に活用したイベントを企画・実践する〔市民、行政〕
- 市民・行・企画・実践したイベントの良い点や改善点を検証し、さらなる魅力な企画を検討する〔市民、行政〕
- 行・より多くの人を楽しめるように積極的に広報・周知する〔まちの振興課（観光促進事業）〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

沿道を含めたエリアの一体的なにぎわいの創出 ～さくらの幹からにぎわいの枝葉が広がるまち～

- 市民・行・道路や沿道の公園・広場、店舗等を休憩の場、出会いの場、活動の場として多面的に活用する〔市民、行政〕
- 市民・行・活用をコーディネートする組織づくりなど体制を整える〔市民、行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [20] まちなかにコミュニケーションが生まれるスポットを増やそう
- [34] 手軽にできる歩いて楽しい歩行空間へのひと工夫を考えよう
- [54] 道路を活用して地域の交流を促進するアイデアを考えよう
- [90] 多様な人が関われる参加型の機会を創出しよう
- [71] 四季折々の緑が感じられるさくら通りの印象的な景観を継承しよう

回遊性を生み出すさくら通りの魅力づくり



さくら通りの緑の維持管理、景観形成、街並みデザインの将来像を検討し、ルールや仕組みづくりなど必要な取組を検討していきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

さくら通りの通行マナーのさらなる向上

- 市民・2車線化と自転車道整備を踏まえて、歩行者、自転車ともに通行時のマナーに心がける〔市民〕
- 行・自転車利用者へのマナー周知、安全運転教育などを推進する〔道路交通課（自転車安全運転の促進、車両・歩行者向け情報提供、交通安全計画推進事業、自転車安全利用促進、自転車安全指導員制度運用）〕

ベンチの維持管理・整備の推進

- 市民・だれもがベンチを利用できるようにマナーに配慮する〔市民〕
- 行・ベンチの清掃・維持管理を行う〔道路交通課／環境政策課〕
- 行・市民の声を踏まえ、必要な休憩スポットを検討し、必要に応じてベンチを設置する〔道路交通課／環境政策課（散策等休憩空間の整備・くにたちベンチ事業）〕

〔現状・課題等〕

回遊性を生み出すためには、散歩の途中で休憩をしたり、日常的にコミュニケーションを取るためのツールとしてベンチが適切に設置してあることが有効です。さくら通りには、歩道、バス停周り、沿道の公園・広場に複数のベンチが設置されており、休憩などで利用する人も増えています。

こうした既にあるベンチがさらに利用したくなるように、市民による利用マナー向上や、適切な清掃・維持管理を進めたり、必要に応じて休憩スポットを増やしていくなど、コミュニケーションを促す仕掛けを検討していくことが大切です。ベンチ空間の充実とともに、さくら通りが歩いて楽しくなる、通りと沿道の一体的なまちづくりが大切です。



さくら通りの歩道に設置されたベンチ

STEP
2

次に取り組みたいこと

富士見台地域の回遊ルートの魅力向上

- 市民・団体・事業・行政・マップの作成や内容をさらに充実させる〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕
- 市民・団体・事業・行政・マップのデジタル化やだれもが国立の魅力を発信できる SNS、ウェブサイトなどの仕組みをつくる〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕
- 市民・団体・事業・行政・地域のまち歩きイベントや散策プログラムを企画・実施する〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕
- 行政・地域を回遊できる自転車道ネットワークの整備・充実を図る〔道路交通課（自転車ネットワークの整備）〕
- 行政・地域を回遊できる移動手段の充実を図る〔道路交通課（コミュニティサイクルのステーション設置・福祉交通の充実）〕
- 行政・既存のサインの改善や必要なサインの整備を検討する〔道路交通課〕
- 行政・回遊性向上に必要な各道路の改善・整備を検討する〔道路交通課〕

緑・景観に配慮したさくら通りの街並みづくり・景観ルールの検討

- 行政・さくら通りの延伸事業に取り組む〔東京都〕
- 市民・行政・緑豊かなさくら通りを将来に継承するための市民参加による緑の維持管理の仕組みを検討する〔市民、道路交通課／環境政策課〕
- 市民・行政・団地の緑や公園の緑との一体性や連続性を踏まえたさくら通り沿道の緑の配置等を検討する〔市民、環境政策課（緑化重点事業対象緑地）〕
- 行政・街路樹などに調和し、道路空間と沿道の建物等が一体となった景観形成や街並みデザインのあり方を検討し、その実現に向けたルールや仕組みづくりなどを示す景観づくりガイドラインの作成を検討する〔都市計画課（国立市景観づくり基本計画）〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

安心・安全に歩いて楽しい歩行者ネットワークの形成

- 市民・行政・緑・景観などの魅力的な街並みの持続可能な維持管理体制をつくる〔市民、行政〕

歩きたくなる、出かけたくなる、自慢したくなる、さくら通りネットワークの実現

市民・行・沿道の街並みにふさわしいオフィスやお店ができるようなルール・仕組みをつくる〔市民、行政〕

市民・行・沿道周辺の地域にふさわしい土地利用の方向性を決める〔市民、行政〕

市民・行・多世代が住みたくなる住環境が向上するようなルール・仕組みをつくる〔市民、行政〕

市民・事・行・さくら通りが魅力的になることで、地域の経済が潤う仕組みをつくる〔市民、事業者等、行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [26] ゆっくりひと休みできるスポットを増やそう
- [27] 多様な地域資源を巡るしかけでまちの回遊性を向上させよう
- [30] さくら通りを中心に個性の違う各道路をつなぎ、歩いて回れる歩行ネットワークをつくろう
- [31] 地域内の道路の歩行の安全性を高めよう
- [32] 安全して歩けるように横断歩道の安全性を高めよう
- [33] バリアフリー化を進めよう
- [34] 手軽にできる歩いて楽しい歩行空間へのひと工夫を考えよう
- [35] 自転車道のルールや交通マナー、交通安全の向上を図ろう
- [48] 大学と連携して学生が住みたくなる、卒業後も住み続けたい仕組みを考えよう
- [49] 多様な住まい方ができるよう住まいの仕組みを検討しよう
- [50] 多世帯居住ができる住宅を誘導を検討しよう
- [67] エリアごとに必要な住環境を踏まえたにぎわいを維持・誘導するルールづくりを検討しよう
- [68] 団地の緑を継承するために、市民みんなで楽しめる空間づくりや使い方を検討しよう
- [70] 市民も参加できる緑の維持管理の仕組みづくりを進めよう
- [71] 四季折々の緑が感じられるさくら通りの印象的な景観を継承しよう
- [77] 富士見台地域の個性を活かした景観づくりを進め、その魅力を発信しよう
- [80] 富士見台地域に合わせた街並みのデザイン（調和・連続性・先進性・環境配慮等）を考えよう
- [81] 交差点の魅力的な景観形成を進めよう

[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

さくら通り
全体

桜をはじめとした季節の風景を感じられる富士見台の象徴となる通り

周辺の緑とつながりが感じられる滞留空間や歩行空間の形成



空が抜けて気持ちが良い印象的な景観のある交差点

富士見台らしい落ち着いた
あるにぎわいの創出

project
03

まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト

お庭と縁側を開放した
家開きによる居場所



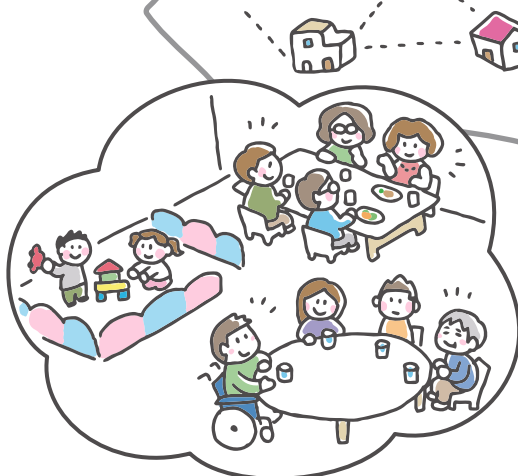
一人で過ごせる
お気に入りの居場所



公共施設のオープンスペースが
思い思いに過ごせる居場所に



だれもが多様な楽しみ方ができる
自分らしい居場所を選べる
富士見台地域



地域のお店が多世代の居場所に

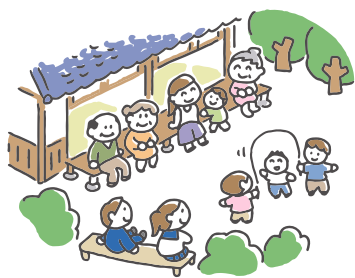


公園などの屋外空間は、自然に触れ、親しみ、
憩いもレジャーもできる居場所に

豊かな暮らしを実現するためには、自宅でも、職場でも、学校でもない、自分らしく安心して過ごせる空間（居場所）が必要です。居場所は、訪れた人がホッとできる空間であり、人とまちとのつながりを作る場所でもあります。一人でも大人数でも気兼ねなく、自由に過ごせる居場所や、同じ目的を持った誰かと協働する居場所、さらに孤立する子どもたちや若者、そして高齢者を地域で支えていく居場所など、屋外、

屋内、公共、民間を問わず、そのあり方は多様です。富士見台地域には、子育て世代、学生、若者から高齢者まで、既にたくさんの居場所が存在しますが、そのいずれもがだれかにとっての「かけがえのない場所」となっています。その魅力をさらに高め、つなぎ、増やすことで、より豊かな暮らしが息づくまちをめざしていきます。

今ある居場所の応援



既にある居場所をより多くの人に知ってもらい、市民ぐるみで応援・協力する環境を整えるため、積極的な情報発信を進めると共に、居場所の運営者にノウハウを学び、その場に気軽に立ち寄れる機会の創出や運営に多様な人が関わることができる工夫を検討・実践します。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

今ある居場所の情報発信や交流の促進

- 国・行**・居場所の運営や利用への協力の輪を広げていくために、交流機会を増やす〔地域活動団体、高齢者支援課／児童青少年課／まちの振興課、公民館〕
- 国・行**・既存の居場所マップなどの配布場所や配布方法を見直し、さらなる活用を図る〔地域活動団体、高齢者支援課／児童青少年課／まちの振興課〕
- 国・行**・SNS、ウェブサイトなど、デジタル環境を充実させ、居場所の情報にアクセスしやすくする〔地域活動団体、高齢者支援課／児童青少年課／まちの振興課〕
- 市民・国・行**・居場所の開設・運営の課題解決やより効果的な取組の促進に向けて応援する〔市民、地域活動団体、児童青少年課（子どもの居場所づくり事業補助金）／高齢者支援課（居場所づくりの支援：総合事業・住民主体の通いの場、居場所づくり：地域生活支援コーディネーターの配置）〕

〔現状・課題等〕

富士見台地域を含め国立市には、すでに多くの居場所があります。こうした居場所は、市民の交流を育み、何か困った時に支え合える地域づくりの基盤となる大切な取組です。しかし、まだ居場所としての活動が、必要なひとに届いていない現状もあります。また居場所同士の交流の試みも始まっていますが、居場所が継続的に維持されるためには、だれかの運営に頼るだけではなく、居場所同士の連携を図るとともに市民みんなで応援していくことが大切です。



〔国立市ホームページ〕
こども・わかものくにペディア 第2版（「つながるまっぷ」つき）

「みんなの、つながるまっぷ」
（出典：こども・わかものくにペディア 第2版）



本を通じて多世代の交流が生まれるまちの居場所
「国立本店」



「わが家」の雰囲気でも世代が出会える・楽しめる
「ひらや照らす」

STEP
2

次に取り組みたいこと

多様な市民が運営に関わる機会づくり

団 事 行・居場所を多くの人に知ってもらうために運営体験してもらう機会をつくる〔地域活動団体、事業者等、高齢者支援課／児童青少年課／まちの振興課〕

団 事 行・居場所の運営団体が交流する機会を充実させる〔地域活動団体、事業者等、まちの振興課（コミュニティ運営支援事業・NPO 活動等推進事業）〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

高齢者から子どもまで、だれもが自分らしい居場所を見つけられるまち

市 民 団 事 行・子どもから高齢者まで、だれもが自分らしい居場所を持てるようにする〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕

市 民 団 事 行・居場所の運営団体が日頃から情報交換し、課題解決や活動の促進に向けて相互に連携するなど、地域全体で居場所をマネジメントする体制をつくる〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕

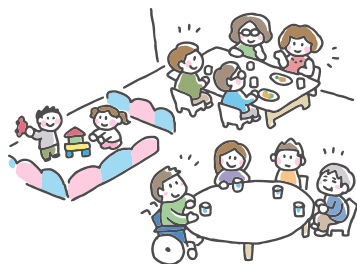


富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [1] 運営をひと工夫して協力者や参加者を増やそう
- [2] 既存の居場所の運営ノウハウを学ぶ機会をつくろう
- [3] 居場所を積極的に情報発信しよう
- [4] 子どもと高齢者の交流の場となる居場所を増やそう
- [6] 中高生の居場所づくりを進めよう
- [9] 子どもや子育て世代が活動・交流できる場所の充実を図ろう
- [88] 居場所に多様な人が関われる運営の工夫をしよう
- [89] 楽しみごとを通じてつながりをつくろう
- [90] 多様な人が関われる参加型の機会を創出しよう
- [91] 高齢者が活躍できる機会を充実させよう
- [97] にぎわいづくりの担い手となる学生・若者の活動を応援しよう
- [99] 子どもたちが商店街で楽しむ、学ぶ機会を増やそう
- [100] 自治会活動に子どもたちが楽しんで参加できるようにしよう
- [101] 親子で参加できるセミナーやワークショップを開催しよう

まちなかの居場所機能の拡充と更なる魅力化



居場所を「交流を育む場所として」と捉えれば、公園・広場、道路、商店街、公共施設、民間施設（コンビニや薬局など）など、様々なところがまちなかの居場所として機能する可能性があります。市民、地域活動団体、行政、事業者等が協力して、歩いて行ける範囲に多種多様な居場所の拡充を図ります。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

公共空間を活用し、居場所としての魅力向上を図る

- **市民**・自分にとって居場所となっている場所があることに気づく、見つける〔市民〕
- **市民・行**・公共施設のロビーなど居場所となっている空間の利用マナーや心地よさが向上する工夫をする〔市民、行政〕

〔現状・課題等〕

屋内に限らず屋外も含め、これまで居場所として認知されていなかった多様な場所が居場所となっています。しかし、まだまだ工夫次第で、居場所になる場所がたくさんあります。わたしたちにとって重要なことは、まちなかに用途や規模の違う多様な居場所が身近に存在することです。そのためには、今ある居場所を把握し、今後どこにどのような居場所が必要か、市民、地域活動団体、事業者等、行政がそれぞれの役割を理解したうえで協力し、充実させていくことが大切です。



コンビニエンスストアのイートインコーナーが休憩やコミュニケーションができる居場所として活用されている例

STEP
2

次に取り組みたいこと

まちの再編などの機会に合わせた多様な居場所の創出

- 団 事 行 ・ 公共施設の整備機会に合わせて居場所空間と運営の仕組みを検討する〔地域活動団体、事業者等、行政〕
- 団 事 行 ・ 学び・食・遊びなど、事例研究なども行いながら居場所における効果的な機能を検討する。〔地域活動団体、事業者等、行政〕
- 市 民 団 事 ・ 商店街の空き店舗や地域の空き家を活用した居場所づくりを進める〔市民、商店会、地域活動団体、事業者等〕
- 市 民 団 事 ・ 商店街の店舗の一角の空きスペースの活用について協力する仕組みを検討する〔市民、商店会、地域活動団体、事業者等〕
- 市 民 団 事 行 ・ UR 国立富士見台団地内の新たな居場所づくりを検討する〔市民、地域活動団体、事業者等、UR 国立富士見台団地自治会、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／児童青少年課／まちの振興課／富士見台地域まちづくり担当〕

家開き等による居場所の創出

- 市 民 団 ・ 自宅の庭や空きスペースを交流の場として開放する〔市民、地域活動団体〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

まちなかに居場所が溢れ、だれもが多様な楽しみ方をできるまち

- 市 民 団 事 行 ・ 市民、地域活動団体、事業者等が運営する居場所、医療・福祉・介護等専門家・行政が運営する居場所など、市民が生活シーンに合わせて多様な分野の居場所が選べるような地域づくりを進める〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [6] 中高生の居場所づくりを進めよう
- [8] 公共施設を交流の場として活用しよう
- [12] 団地の集会所の居場所機能を充実させよう
- [20] まちなかにコミュニケーションが生まれるスポットを増やそう
- [22] 歩ける範囲に医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討しよう
- [25] 気軽に相談できる仕組みづくりを進めよう
- [51] 多くの市民が利用したくなるワクワクする機能やデザインを検討しよう
- [57] 人と出会い、つながる場として商店街を活用しよう

[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト



子ども、大人、高齢者の各世代ニーズに合わせたふらっと気軽に立ち寄れる居場所拠点

居場所として活用可能性がある場所

- ◆ 文化施設
- ◆ 郵便局
- ◆ 地域施設 (集会所、福祉館、防災センター)
- 医院・クリニック (一般)
- 療術院 (整体・マッサージ等)
- 動物病院
- 保育所・託児所
- 福祉施設・介護事業所
- 児童福祉施設
- 老人福祉施設
- 大型総合店舗
- コンビニエンスストア
- 薬局・ドラッグストア
- 書店・文具店
- 美容院・理髪店・エステ
- 婦人服・ベビー用品販売等
- カフェ
- 居酒屋
- ファミリーレストラン
- ファーストフード
- レストラン
- スポーツ施設
- 娯楽施設

※引用：電話帳データ

- 1 多摩棕櫚亭協会
- 2 おいでよ。ごはんや
- 3 コトナハウス
- 4 プラムジャム 駄菓子やくにちゃん
- 5 ひらや照らす
- 6 福祉会館
中央児童館
たまご (多孫・他孫) 食堂
- 7 おいしいじかん
- 8 NHK 学園

子ども、大人、高齢者の各世代ニーズに合わせたふらっと気軽に立ち寄れる居場所拠点

- 9 国立富士見台第二団地 集会所
- 10 くにたち中央図書館
- 11 子どもショートステイ おひさま
- 12 国立市役所
- 13 国立富士見台第三団地 集会所
- 14 幼児教室風の子

凡例



重点プロジェクト推進
の中で継承したい価値



ニーズを踏まえた
空間づくりのポイント



既に活動のある居場所
※一部『こども・わか
ものくにペディア第
2版』を引用

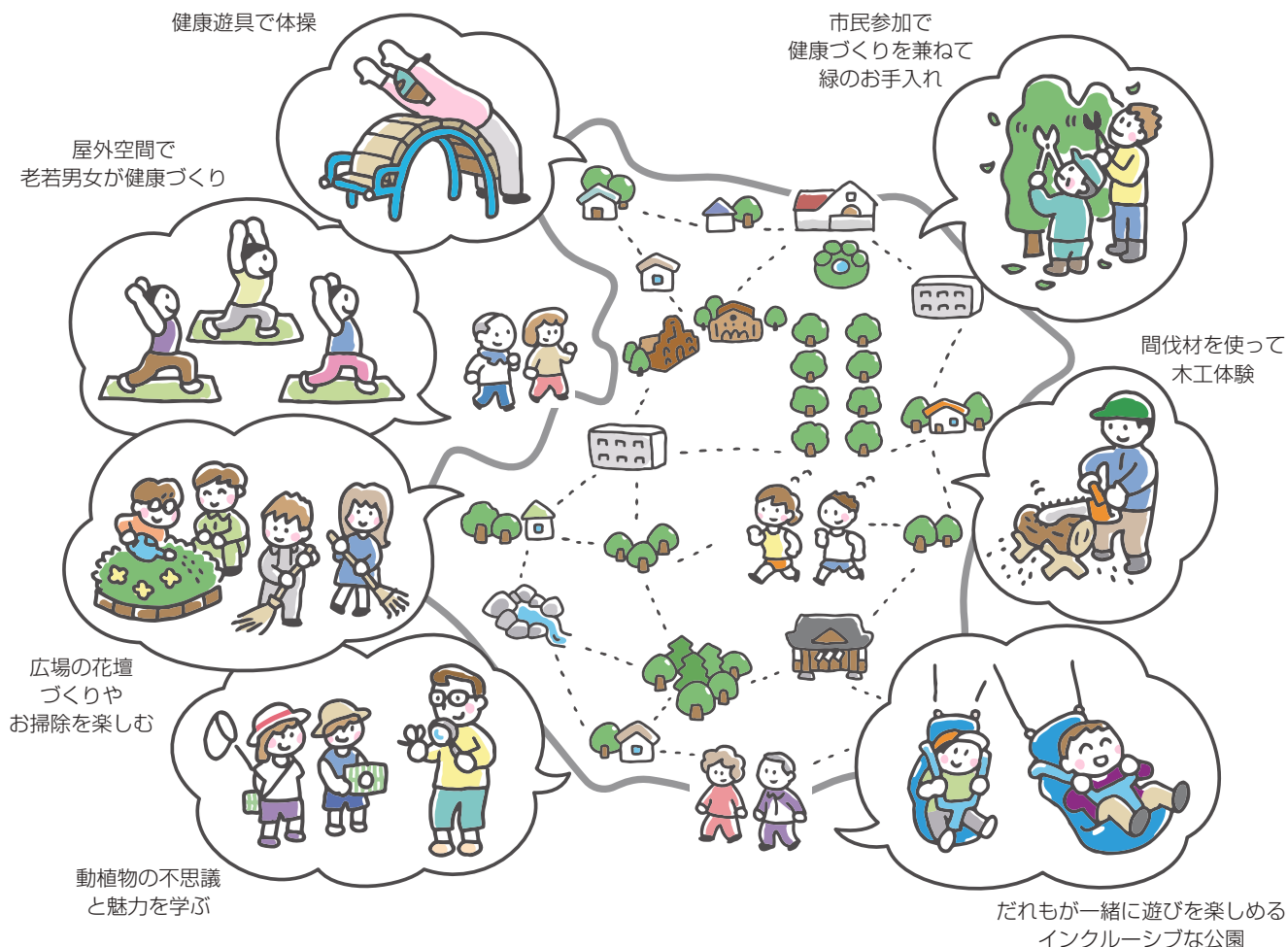
- 公共・公益施設等
- 団地
- 公園
- 農地
- 商業施設
- 医療・福祉施設
- 樹木
- 商店街
- - 区域
- 線路



- 15 保健センター
- 16 子ども家庭支援センター
- 17 看護小規模多機能オリーブ
- 18 矢川プラス

project 04

グリーンインフラを活用した まちの回廊化プロジェクト



富士見台地域には、自然、地形、歴史資源、緑や農など、まちの成り立ち、なりわい、文化を感じられる多くの地域資源があります。例えば、多様な規模の個性豊かな公園の緑、さくら通りの街路樹や沿道の緑、UR 国立富士見台団地など大規模団地の敷地内の自然地形や緑地など、数多くの緑・自然を有したオープンスペース（グリーンインフラ^{（※1）}）が存在します。わたしたちは、グリーンインフラがあることで、公園を利用したり、緑豊かな空間でウォーキングを楽しんだりする中で、緑・自然に触れ、暮

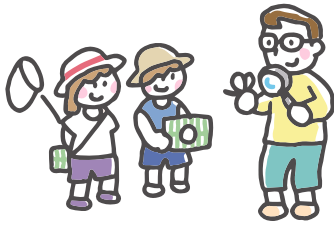
らしの中での潤いを実感することができます。また、グリーンインフラは、災害時の避難に活用できるなど暮らしにいざという時の安心を与えてくれるほか（フェーズフリー^{（※2）}）、緑化活動などを媒介として、人のつながりも生み出します（グリーンコミュニティ^{（※3）}）。個々のグリーンインフラの持つ価値により注目し、それらを回廊としてつなぎ、自然がもつ多様な機能を引き出し、活用することで、自然と共生するまちをめざしていきます。

（※1）自然が持つ多面的な機能を引き出すこと

（※2）日常時と非常時を2つの違う局面と分けずに一緒に考えること

（※3）人と自然の共生によるコミュニティ

公園等のオープンスペースの利用促進と更なる魅力化



公園ごとの特徴を踏まえた魅力発信をし続けるとともに、公園の改修等の機会に合わせて、その個性を生かしながら、さらに多くの人にとって使いたくなる公園にするための改善方策を検討します。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

公園で行われている活動への参加機会を拡充

- 市民・団・行**・公園で行われる活動やイベントを多くの人を楽しめるように、情報発信に力を入れる〔市民、地域活動団体、環境政策課〕
- 団・行**・公園を利用した健康づくり活動を推進する〔地域活動団体、健康増進課（健康づくり推進員事業・いきいき百歳体操など）〕
- 団・行**・イベント時に合わせて公園の特徴や活動の情報発信を行う〔地域活動団体、まちの振興課／環境政策課／保健センター〕

〔現状・課題等〕

富士見台地域には、大小様々な規模の公園やオープンスペースがあり、多種多様な過ごし方が選択できる良好な環境が存在します。子育て世代のご意見からも、多くの公園があることが富士見台地域の大きな魅力のひとつとしてあげられています。

しかし、この魅力がまだまだ市民に伝わっておらず、もっと多くの市民が公園を楽しんで欲しいという声もあげられています。

特徴ある公園ごとの多様な過ごし方や様々な活動がしやすい公園にするにはどうすべきか、わたしたちの積極的な関わりが求められています。



乳幼児から中高生まで様々な年代の子どもたちでにぎわう矢川上公園

STEP
2

次に取り組みたいこと

より親しまれる公園への改善

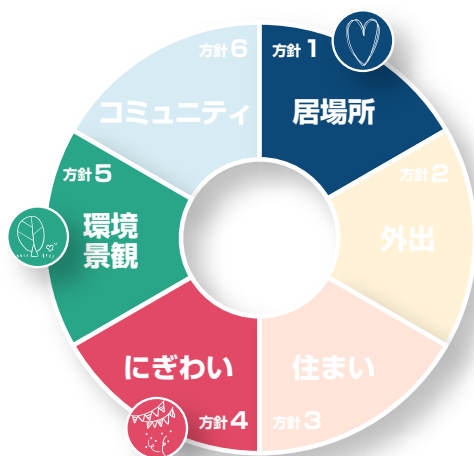
- 行・ 国立市内全体を考慮し、地域特性を踏まえた公園のあり方を検討する〔環境政策課（緑の基本計画の改定・公園施設の長寿命化計画の策定）〕
- 市民 行・ 公園利用者や市民の参加を得て、公園の魅力アップにつながる整備を検討する〔市民、地域活動団体、環境政策課〕
- 行・ 健康遊具やインクルーシブ遊具の導入を検討する〔環境政策課〕
- 市民 行・ 公園のにぎわいと周辺地域のにぎわいを効果的につなげる方法を検討する〔市民、行政〕
- 市民 行・ 公園等オープンスペースの魅力化やグリーンインフラの機能が維持・継承されるための管理方策を検討する〔市民、行政〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

グリーンインフラの多面的な機能を引き出す、自然と共生するまち

- 市民 行・ 富士見台地域の自然が持つ機能を調査し、その効果を見える化し、活用する仕組みをつくる〔市民、行政〕
- 市民 行・ グリーンインフラのネットワーク化を持続可能にするまちづくりを実現する〔市民、行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [17] 公園ごとの個性を魅力としてもっと市民に伝え、使ってもらおう
- [18] 子どもや子育て世代たちにとって利用したくなる公園にしよう
- [21] 遊びや運動ができる場所を増やしたい
- [55] 多くの人に利用してもらえるように公園の魅力を発信しよう
- [56] 公園の使い方をみんなで検討し、公園利用を促進しよう
- [70] 市民も参加できる緑の維持管理の仕組みづくりを進めよう
- [73] 住まいの緑と周辺の緑が一体となる工夫を考えよう
- [74] 民有地の緑が増える仕組みをつくろう
- [75] 富士見台地域の印象的な緑を保全し、緑の拠点にしよう
- [76] 富士見台地域の緑と谷保・多摩川・立川の緑を広域でネットワークさせよう
- [82] 農地を生かして、地域をめぐる仕組みをつくろう

外出がもっと楽しくなる回遊性の向上



富士見台地域をはじめ国立市内に多く存在する地域資源を単体としてではなく、線・面として捉え、巡れるような仕掛けや、おでかけや健康づくりにつながるような仕組みづくりを確立します。また、市民参加により地域資源を守り育てていく仕組みづくりを検討します。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

健康づくりと遊びに関わるスポット情報の収集・整理

市民・今あるまち歩きマップを活用して歩いてみる〔市民〕

国・行・国立市における健康ウォーキングルート of のさらなる周知やマップ of のデジタル化などにより利用促進を図る〔地域活動団体、健康増進課〕

国・事・行・健康づくりや遊びができる場所 of の情報を集めてマップ等を作成し周知する〔商店会、地域活動団体、事業者等、健康増進課〕

既存の回遊ルートなどに関する情報を一元管理・発信

行・多様なテーマで作成されたマップをデジタル化などにより、一元的に情報提供できるようにする〔行政〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

安心・安全に外出できる、健やかで長生きできるまち

- 市民・団体・事業・行政**・市民、地域活動団体、事業者等、行政が協働して、だれもが外出しやすくなるための支援を行う〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕
- 市民・行政**・外出時に定期的に自分の健康を測定したり、外出効果を見える化できる場や仕組みをつくる〔市民、行政〕
- 行政**・外出が楽しくなる、外出したくなる環境を整え、健康寿命の向上を定量化し、施策に反映できる仕組みをつくる〔行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [21] 遊びや運動ができる場所を増やしたい
- [22] 歩ける範囲に医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討しよう
- [24] 歩ける範囲に医療や健康ニーズに応える場や機会を増やそう
- [27] 多様な地域資源を巡るしかけでまちの回遊性を向上させよう
- [28] 健康づくりの視点で歩いて回れる環境を充実させよう
- [29] 団地を開き、市民の散歩道にして、まちの回遊性を向上させよう
- [30] さくら通りを中心に個性の違う各道路をつなぎ、歩いて回れる歩行ネットワークをつくろう
- [31] 地域内の道路の歩行の安全性を高めよう
- [34] 手軽にできる歩いて楽しい歩行空間へのひと工夫を考えよう
- [51] 多くの市民が利用したくなるワクワクする機能やデザインを検討しよう
- [58] 地域の情報発信の場として、商店街と連携しよう
- [69] 団地の景観をよりよくするために、事業者等との連携を検討しよう
- [70] 市民も参加できる緑の維持管理の仕組みづくりを進めよう
- [73] 住まいの緑と周辺の緑が一体となる工夫を考えよう
- [74] 民有地の緑が増える仕組みをつくろう
- [77] 富士見台地域の個性を活かした景観づくりを進め、その魅力を発信しよう
- [78] 江戸街道の歴史文化を発掘し、その魅力を多くの人に情報発信しよう
- [79] 脱炭素社会の実現に向けた取組を心がけよう
- [82] 農地を生かして、地域をめぐる仕組みをつくろう
- [89] 楽しみごとを通じてつながりをつくろう
- [91] 高齢者が活躍できる機会を充実させよう
- [92] 高齢者が地域とつながる機会を増やそう

[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

グリーンインフラを活用したまちの回廊化プロジェクト



凡例



重点プロジェクト推進
の中で継承したい価値



ニーズを踏まえた
空間づくりのポイント

- 公共・公益施設等
- 団地
- 公園
- 農地
- 商業施設
- 医療・福祉施設
- 樹木
- 商店街
- 区域
- 線路

継承したい価値である緑の拠点同士を緑
の軸でつなぎネットワーク形成を図る

落ち着いた豊かな緑と
遊び場がある憩いの空間

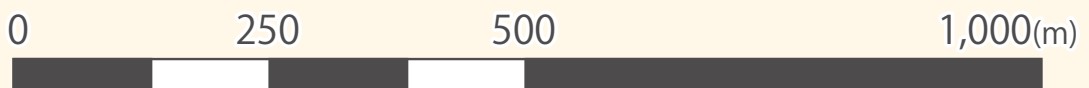
様々な活動・集いができる
広々とした谷保第三公園

落ち着いた豊かな
緑と遊び場がある憩いの
空間

季節ごとに歩いて楽し
めて富士見台のシンボ
ルとなる緑の軸となる
さくら通り

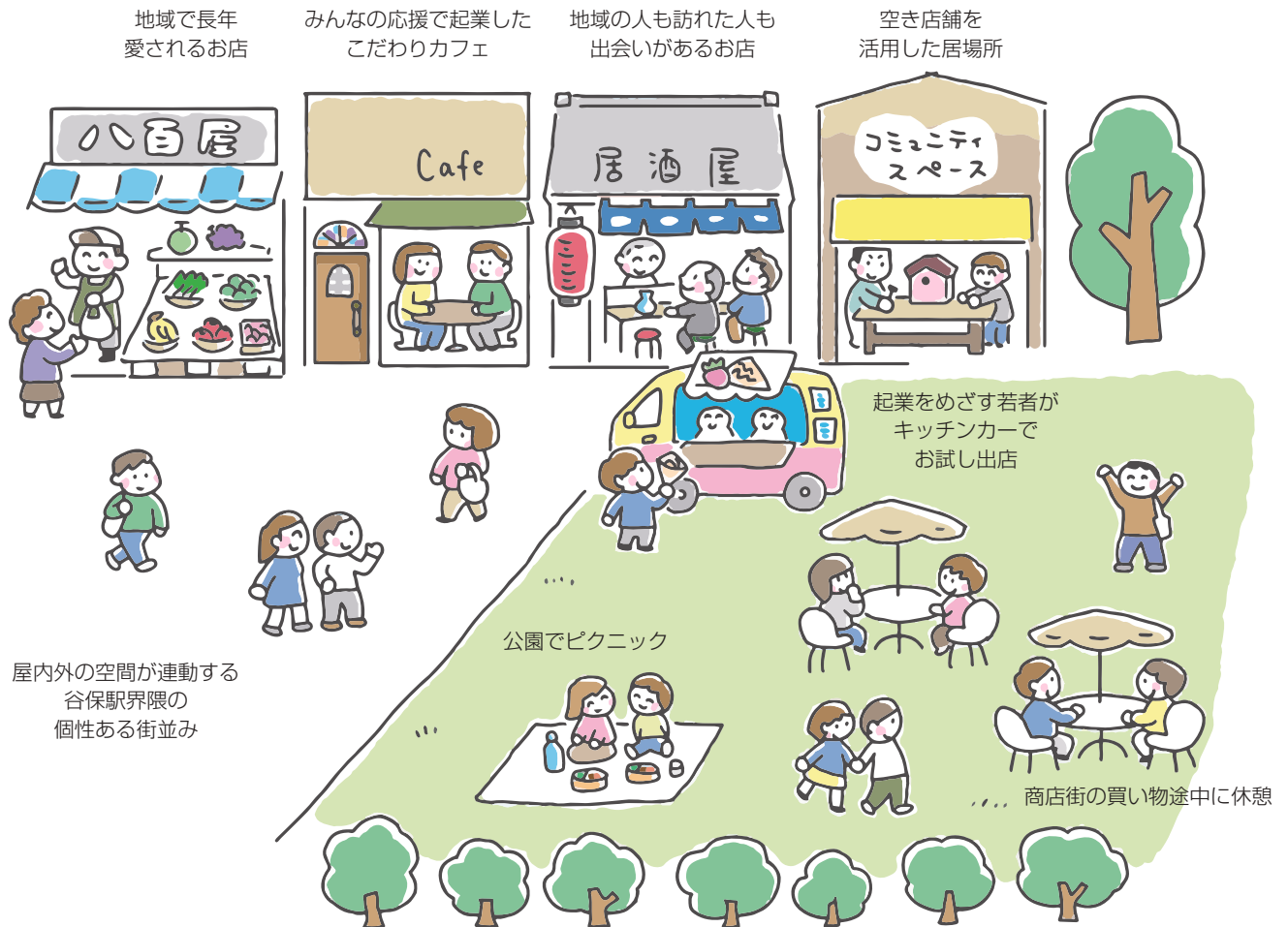
買い物ついでにゆったり
くつろげる谷保第一公園

滑り台やカバが人
気の谷保第二公園



project 05

谷保駅を含めた商業地のにぎわい づくりプロジェクト



谷保駅周辺には 3つの商店街（富士見台名店街商業協同組合、協同組合国立ダイヤ街、谷保駅北口商店会）を含めた商業地エリアが存在します。

このエリアは、商店街の魅力的な商店、昔からある施設、開かれた公園、UR 国立富士見台団地内のひろば空間など、役割の異なる魅力的な場に新たなうまれたコミュニティスペースが加わり、ただ買い物をするだけの場所ではなく、そこを訪れることで、にぎわいを肌で感じることができ、なぜかワクワクさせてくれるエリア

になっています。さらに谷保天満宮や本田家住宅など、南部地域に残る、国立市の前身・谷保村の歴史文化とのハブ機能を有し、さらに、国立府中インターチェンジとの近接や高速バスの発着など、国立の玄関機能も有しています。地域の立地特性を考慮し、商店街を中心に今の個性を生かしつつ、お互いに連携を図り、市民にとって生活に必要な場所、暮らしに楽しみを提供する場所としての継承と新たなにぎわいを生み出すための展開をめざしていきます。

商店街の個性を活かしながら、新たな活動や居場所が生まれる エリアづくり



谷保駅周辺の商業地エリアは、商店街とともに隣接する、谷保第一公園、UR 国立富士見台第一団地の広場（たまご広場）などの集いの場となっており、通過交通も少なく、各機能が相互に連動し歩行者が安心して買い物やおでかけを楽しめる環境を有しています。

個性ある店舗や既存の居場所を応援するとともに、新たなチャレンジがしやすい環境づくりと、今ある豊かな空間どうしの連動性をさらに高めていきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

既存のイベントや活動、地域に愛されるお店など谷保駅周辺の魅力を再認識し、
情報を発信

市民団行・谷保駅周辺の魅力を整理し、一体的な情報発信を行う [市民、商店会、地域活動団体（KF ※）、まちの振興課] ※ NPO 法人くにたち富士見台人間環境キーステーション

〔現状・課題等〕

谷保駅周辺には、20代から40代くらいの世代の個人商店主・事業主が増えており、新たなコミュニティを形成し始めています。また地域の中にある課題やニーズを自分ごととして捉え、解決を实践する活動も多く存在します。こうした取組と既存の商店街がともに連携しエリア全体の魅力を高めていくことが重要です。

そのためには、新たな活動がチャレンジやすく受け入れられやすい環境にしていけることが大切です。また、既存の商店街を含めて、わたしたちはエリア全体をどう応援していくことができるか検討していくことが重要です。



子どもとオトナが学んで遊ぶ
シェアハウス「コトナハウス」



食の起業が可能な保健所許可
付きシェアキッチン「おへそキッチン」



本をきっかけにつながりを生み出す「まちライブラリー」



曜日や時間によって変化する
シェア商店「富士見台トンネル」

STEP
2

次に取り組みたいこと

新たな魅力づくりのための、だれもが新たなチャレンジをしやすい場や仕組みの支援

- ・ 子どもや高齢者の居場所づくりを企画したり、運営する [市民、地域活動団体]
- ・ チャレンジしたい人と商店街・地域関係者がお互いに力を出し合える場や仕組みをつくる [市民、商店会、地域活動団体、行政]
- ・ 起業相談の制度を活用する [市民、まちの振興課（くにたちビジネスサポートセンター（Kuni-Biz））]

商店街・広場・公園の屋内外の空間利用の連動の促進

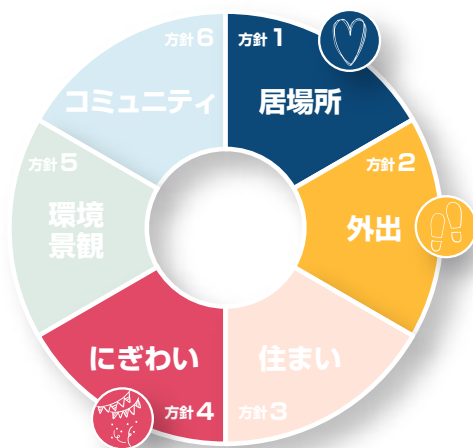
- ・ 日常的な道路空間の活用を促進し、空間と空間の連続性を高める [商店会、道路交通課（道路占用許可）]
- ・ ベンチの設置やだれでも利用できるトイレの整備などさらに利用しやすい公園のあり方を検討する [市民、地域活動団体、環境政策課]

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

谷保駅界隈の多様な個性が重奏する、「谷保ブランド」の創出

- 市民 団 事 行**・商店街がこれからも継続するように必要な取組やルールを検討する（市民、商店会、地域活動団体、事業者等、まちの振興課：商店街振興事業）
- 市民 団 事 行**・地域にふさわしい街並み形成のために、必要に応じて地区計画や地区まちづくり計画等の活用を検討する〔商店会、市民、地域活動団体、事業者等、都市計画課〕
- 市民 団 事 行**・歩行者優先で歩きたくなる道路の環境を向上させる〔商店会、市民、地域活動団体、事業者等、道路交通課〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

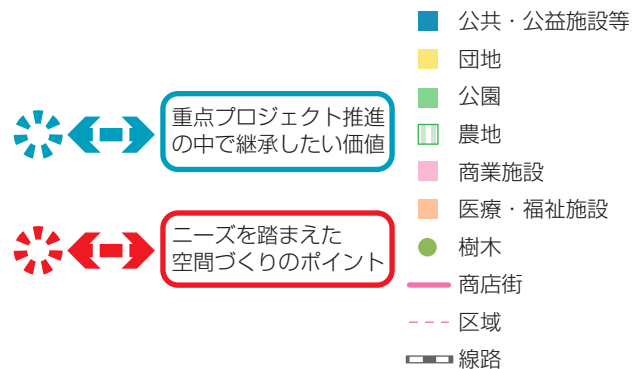
- [15] まちの居場所として立ち寄りたくなる商業機能を誘導しよう
- [16] 子どもや子育て世代が立ち寄りたくなるお店を増やそう
- [27] 多様な地域資源を巡れるしかけでまちの回遊性を向上させよう
- [57] 人と出会い、つながる場として商店街を活用しよう
- [58] 地域の情報発信の場として、商店街と連携しよう
- [59]暮らしに必要なものが買いそろえられ、富士見台地域で経済が循環する仕組みを考えよう
- [60] 市民がやってみたいことをチャレンジする場として活用できるよう検討しよう
- [61] 商店街同士が連携する機会や活動を増やし、富士見台地域らしい商店街づくりを進めよう
- [62] 若い世代や働き世代のニーズに合わせた工夫を考えよう
- [64] 商店街や地域のにぎわいを支えるだれもが自分らしく働ける機会や場をつくろう
- [65] 駅周辺のにぎわいを誘導するための土地利用ルールを検討しよう
- [66] 公園やひろばの周辺に立ち寄りたくなるにぎわい機能を誘導し、にぎわいの相乗効果を生み出そう
- [67] エリアごとに必要な住環境を踏まえたにぎわいを維持・誘導するルールづくりを検討しよう

[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

谷保駅を含めた商業地のにぎわいづくりプロジェクト

凡例



500(m)